

★ 9月 今月の健康スペシャルデー

9月9日はきゅうきゅう=救急の日ですね。大人と違って、こどもは病状がわかりにくかったり、急激に症状が進んだり、油断できません。今月の健康スペシャルデーのお話は…

救急を辞書で引くと、「急病やけがに応急の手当てをすること」となっています。この救急にも、簡単な処置や薬で対応できる一次救急、入院して治療を要する二次救急、強力な治療を要する三次救急と三段階に分かれています。アメリカでは、一次救急、二次救急、三次救急を一ヶ所で行うER方式が一般的ですが、このシステムでは重症者から優先的に診療するため、軽症者は長い間待たなければなりません。

日本では、一次救急を行う医療機関、二次救急を行う医療機関、三次救急を行う医療機関が分かれています。津市を含む中勢地区の小児救急では、津市休日応急診療所が小児一次救急医療機関、三重病院が小児二次救急と一部の三次救急を行う医療機関です。三重県各地とも、午後11時頃まではこのシステムで動いていますが、深夜になると一次救急医療機関が存在しません。現在津市に深夜も一次救急ができるよう働きかけています。

さて、入院が必要と思われる重たい症状はどういうものでしょう？世界保健機関やユニセフは途上国の子どもの健康を守るために、入院が必要な症状をあげています。この基準は深夜になると途上国並みの救急体制になる日本にも当てはまります。

一番目の症状は、「うとうとする」などの意識レベルの低下です。話しかけてもおかしな応答をする、眠ってばかりいるなどは緊急のサインです。化膿性髄膜炎、急性脳炎脳症などの重篤な感染症が疑われます。

子どもの危険な症状について

二番目の症状は、「けいれんがある」です。発熱による短時間(5分以内)の痙攣ならば多くは問題がないですが、初めての痙攣、繰り返す痙攣、持続時間が30分以上と長い痙攣、痙攣がおさまっても意識が戻らないなどは危険なサインです。

三番目の症状は嘔吐を繰り返す場合です。嘔吐をしたあとニコニコしているときは心配ないですが、機嫌が悪い、うとうとするときは要注意です。お腹が張っているときは外科的な疾患が疑われます。嘔吐だけでは脱水はきたしにくいですが、嘔吐に下痢を伴っているときは急速に脱水が進むため要注意です。

四番目の症状は、呼吸をするときにうなる(呻吟呼吸)、呼吸をするときに胸やお腹がへこむ(陥没呼吸)、呼吸時に喘鳴があるなどの呼吸困難を思わせる症状があるときです。1歳未満児では呼吸数が1分間に50以上、1歳以上では呼吸数が1分間に40以上のときも要注意です。

WHOの基準に含まれていませんが、五番目の気になる症状は生後数ヶ月(特に生後1ヶ月)以内の発熱です。重症の細菌感染や無菌性髄膜炎が隠れています。鼠形ヘルニアが戻らないとき、睾丸の痛みを訴えるときも緊急です。

このような症状があるときは、一次救急が開いているときは一次救急を受診してください。一次救急が開いていない時間帯は三重病院に問い合わせてください。皆様も深夜の一次救急が動くよう津市に働きかけてください。お願いします。(院長 庵原 俊昭)

三重病院 外来糖尿病教室

9月開催のお知らせ

★9月のテーマ

運動についての基礎知識と 気軽にできる運動

日時 ● 平成21年9月30日(水) 14時~15時

場所 ● 三重病院 研修棟 第1研修室
(表玄関向かって左側の建物です)

担当 ● 2病棟看護師 谷口 彩子
リハビリ室 理学療法士



夏の暑さも和らいで
運動のしやすい季節となりました。
運動についての基礎知識と
気軽にできる運動をご紹介します。
当日は動きやすい服装でお越しください。

参加費は無料で、どなたでも参加できます。
当日会場にお越しください。詳しくは内科外来
窓口でお尋ねください。